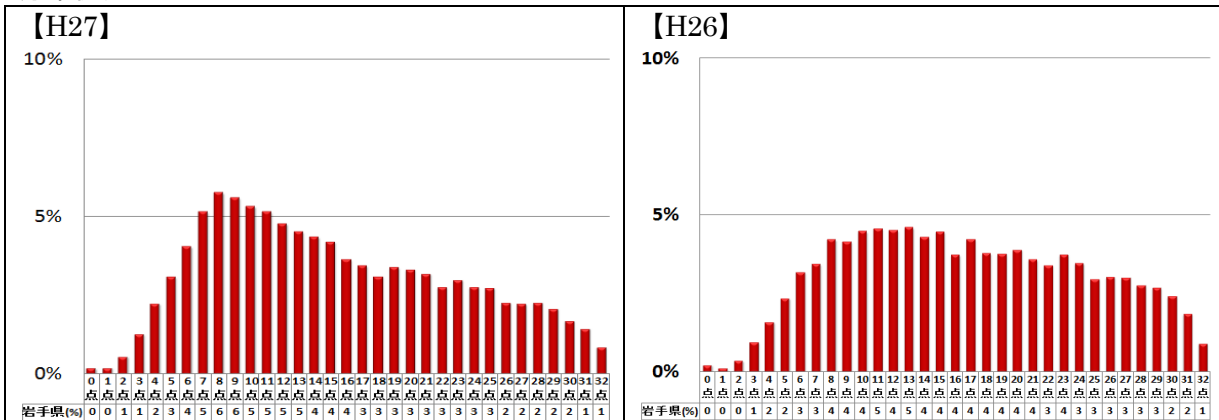


# 授業改善の手引 中学校第 2 学年英語

## 1 調査結果

### (1) 分布状況



- 問題数は昨年度と同じで、正答数の最頻値は 8 問、平均正答数は 15 問です。昨年度の分布と比較して中央の山がやや高くなり左に移動しています。また、正答数 7～11 問の層が増えています。  
(正答数の最頻値：該当する生徒数の最も多い正答数)

### (2) 領域等の正答率

領域等	正答率			観点等	正答率		
	( ) は H26, < > は H25				( ) は H26, < > は H25		
聞くこと (6 問)	71%	(76%)	<64%	外国語理解の能力 (19 問)	53%	(60%)	<57%
読むこと (13 問)	44%	(53%)	<54%	外国語表現の能力 (4 問)	29%	(26%)	<36%
書くこと (13 問)	41%	(41%)	<37%	言語に対する知識・理解 (9 問)	46%	(44%)	<37%
				活用 (5 問)	40%	(48%)	<53%

### (3) 結果概要

- 「外国語表現の能力」については、場面を捉えて表現する力を見るために、適語補充から全文記述に出題方法を変更した問題があります。全文記述になっても正答率が大きく伸びた問題がある一方、基本的な文法での誤答も多く、「正しく書く」ことがまだ十分ではありません。
- ◇ 「書くこと」では、自分のことについて内容につながりのある英文を書く問題の語数指定が 15 語から 20 語に増えました。正答率が昨年度より上昇したことから、「まとまりのある英文を書く」ことの指導が意識されてきたと言えますが、無解答率が 30 ポイントを超えているという課題は継続しています。
- 「外国語理解の能力」で特に「読むこと」で正答率が大きく下がりました。昨年度までと比較して、部分的な読み取りではなく、全体を把握したうえで解答するような問題が多かったためと考えられます。「読むこと」の指導の中で、書き手が何を伝えようとしているかについても思考しながら、まとまりのある英文の概要をつかむ力をつけていく必要があります。
- 「書くこと」については、基本的な単語の綴りが依然として課題です。音と文字の関係を丁寧に指導するとともに、運用度の高い語彙については言語活動の中で計画的に使用させるなど、正しく書けるまで継続して指導することが必要です。

### (4) 経年比較問題の状況 (○改善, ◇改善傾向, ●課題が継続, ▲は前回調査との比較マイナスを表す)

小問 No	正答率	比較	小問 No	正答率	比較	小問 No	正答率	比較
○ 9	91	31	◇ 14	30	13	● 19	34	0
◇ 27	38	17	◇ 29	36	13	● 30	18	▲10
◇ 31	37	9						

- 小問 9 は正答率が 90% を超え、課題状況の改善が見られました。
- 小問 14, 27, 29 については正答率が 10 ポイント以上向上し、課題の改善傾向が見られます。
- 小問 30 については、正答率が 20% 以下なのに対して誤答率が 50% を超えています。現在進行形の be 動詞の欠落、一般動詞の三単現の s 等、引き続き課題を意識した指導が必要です。

(5) 小問別正答率

問題番号				調査問題のねらい	学習指導要領との関連	主な観点	備考	正答率	選択 No. (%)						
大問	中問	小問	通し番号						1	2	3	4	5	6	0
									選択	選択	選択	選択	誤答	正答	無解答
1	(1)	1		会話(年齢をたずねる場面)の流れを理解し、正しい表現を選択できる。	ア(ウ)聞く	理		59	5	32	59	3	0		1
	(2)	2		会話(どこにいたかをたずねる場面)の流れを理解し、正しい表現を選択できる。	ア(ウ)聞く	理		40	19	40	12	28	0		1
	(3)	3		会話(交通手段をたずねる場面)の流れを理解し、正しい表現を選択できる。	ア(ウ)聞く	理		63	63	5	8	22	0		1
2	(1)	4		キーワード(name)を聞き、正しく書くことができる。	エ(ア)書く	知・理		72					22	72	6
	(2)	5		キーワード(cleaning)を聞き、正しく書くことができる。	エ(ア)書く	知・理		39					54	39	6
	(3)	6		キーワード(beautiful)を聞き、正しく書くことができる。	エ(ア)書く	知・理		39					48	39	14
3	(1)	7		キーワード(好き、国語と理科)を聞き取り、正しい答えを選択できる。	ア(イ)聞く	理		90	3	90	5	2	0		0
	(2)	8		キーワード(映画、午後2時30分)を聞き取り、正しい答えを選択できる。	ア(イ)聞く	理		80	2	6	11	80	0		0
	(3)	9		キーワード(読む、本、日本の食べ物)を聞き取り、正しい答えを選択できる。	ア(イ)聞く	理	経年	90	3	2	5	90	0		0
4	(1)	10		言語の使用場面・働き(自分の立場を表す表現)を理解し、正しい会話文を完成させることができる。	ウ(ウ)読む	理		57	12	15	57	15	0		1
	(2)	11		言語の使用場面・働き(許可を求める表現)を理解し、正しい会話文を完成させることができる。	ウ(ウ)読む	理		59	12	8	20	59	0		1
	(3)	12		言語の使用場面・働き(人物をたずねる表現)を理解し、正しい会話文を完成させることができる。	ウ(ウ)読む	理		57	57	17	12	13	0		1
5	(1)	13		対話とグラフの内容を正確に読み取り、空所に入る適切な語を理解できる。	ウ(ウ)読む	理	活用	42	10	42	29	15	2		2
	(2)	14		対話の前後のやりとりからsoが表す内容を理解できる。	ウ(ウ)読む	理	経年	30					37	30	33
	(3)	15		対話とグラフの内容を正確に読み取り、正しい答えを選択できる。	ウ(ウ)読む	理	活用	48	24	48	12	13	0		3
6	(1)	16		対話の流れを読み取り、適切な表現を選択できる。	ウ(ウ)読む	理		52	9	16	22	52	0		1
	(2)	17		対話の内容を読み取り、正しい答えを選択できる。	ウ(ウ)読む	理		60	18	9	60	11	0		1
	(3)	18		対話の内容を理解し、その概要を日記文の形式で完成させることができる。	ウ(ウ)読む	理	活用	51	15	51	17	15	0		2
7	(1)	19		長文の概要・要点を理解し、正しい答えを選択できる。	ウ(ウ)読む	理	経年	34	34	26	22	15	0		3
	(2)	①	20	長文の内容を読み取り、時をたずねる文に正しく答えることができる。	ウ(ウ)読む	理		26					37	26	37
	(2)	②	21	長文の内容を読み取り、数をたずねる文に正しく答えることができる。	ウ(ウ)読む	理		11					55	11	35
	(3)	22		長文の内容を読み取り、正しい答えを選択できる。	ウ(ウ)読む	理		51	20	8	17	51	0		4
8	(1)	23		場面と文法(Whatで始まるbe going toの疑問文)を理解し、正しい語順で書くことができる。	エ(イ)書く	知・理		80					16	80	5
	(2)	24		場面と文法(接続詞thatが省略された文)を理解し、正しい語順で書くことができる。	エ(イ)書く	知・理		53					43	53	5
	(3)	25		場面と文法(How longで始まるwillの疑問文)を理解し、正しい語順で書くことができる。	エ(イ)書く	知・理		33					62	33	5
9	(1)	26		代名詞mineを正しく書くことができる。	エ(イ)書く	知・理		42					29	42	29
	(2)	27		動詞haveの過去形hadを正しく書くことができる。	エ(イ)書く	知・理	経年	38					47	38	15
	(3)	28		名詞Wednesdayを正しく書くことができる。	エ(イ)書く	知・理		17					50	17	32
10	(1)	29		言語の使用場面・働き(依頼する表現)を理解し、正しく書くことができる。	エ(イ)書く	表	経年	36					42	36	23
	(2)	30		言語の使用場面・働き(現在進行形)を理解し、正しく書くことができる。	エ(イ)書く	表	経年	18					55	18	28
11	(1)	31		自分が最近行った場所と、その場所でのことを含めた英文を書くことができる。	エ(エ)書く	表	経年活用	37					31	37	32
	(2)	32		自分が最近行った場所について、気持ちや印象を含めて、20語以上で内容につながる英文を書くことができる。	エ(オ)書く	表	活用	24					39	24	37
全体正答率								48							

## 2 指導のポイント

(1) 授業の中で生徒が場面や状況を思考しながら、聞き取り続けることができる力を育てましょう。

### ア 問題の概要

1 (1) 会話の流れを理解し、正しい表現を選択できる。(ア (ウ) 聞く) [正答率 59%]

[読みあげ原稿]

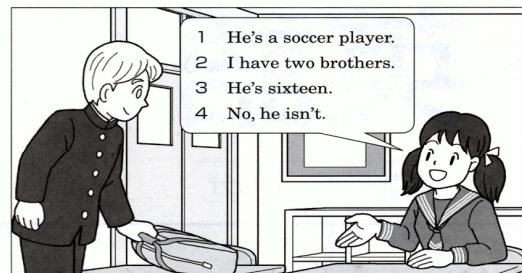
Jack: Hi, Yumi.

I saw you with a cool boy this morning.

Yuri: Oh, that's my brother.

Jack: How old is he?

Yuri: (チャイム)



選択肢と解答率

1 He's a soccer player.

5.3

2 I have two brothers.

31.8

3 He's sixteen.

58.8

4 No, he isn't.

3.5

### イ 誤答分析

(ア) 過去形を含む内容の聞き取りに慣れていない

対話が「今朝見た少年(過去)」について「彼の年齢(現在)」を尋ねる問題になっています。過去の表現に慣れていないため、挿し絵からも十分な情報が得られず、対話全体の流れを理解できなかったことが考えられます。

(イ) 疑問詞の意味や用法が理解できていない

疑問詞を含む疑問文の理解が不十分です。How～? と聞いて、小学校の外国語活動で慣れ親しんでいる How many ～? に対する応答と誤って、選択肢 2 を選んだということも考えられます。

他に今回「疑問詞」を扱った正答率の低い問題としては、以下のようなものがあります。

※[ ] 内の数値は正答率

4 (3) who [57.2%] / 6 (1) when [52.1%] / 7 (2) ① when [25.7%]

### ウ 改善の視点・・・「聞く」技能と「話す」技能を統合する指導の工夫

(ア) 一つ的话题について対話を継続し、深めたり発展したりする力をつける

聞き取った内容について、生徒が質問を考え内容を深めたりさらに発展させたりすることができる場を授業に設定しましょう。そのためには日常的な教室英語の使用が効果的です。生徒の興味を引くような話題や生徒のスピーチ等について、生徒が wh-question を考え、さらに詳しく質問したりする場を設けることで聞く力を高め、既習事項の定着を促すことができます。授業で日常的に生徒が英語を集中して聞き、聞き返したり、対話を発展・継続したりできる力を高めていきましょう。

(イ) 「聞き手」を中心に据えて「話す」活動をデザインする

スピーチや発表の際には、まず「聞き手」の知的好奇心や興味関心を引く活動になるよう工夫しましょう。周囲がスピーチを聞いていなかったり、聞こえない声で発表が続いたりすることのないよう、活動の目標や評価の観点を明確にし、「よい聞き手」を準備することが「話し手」が積極的にコミュニケーションを図ろうとするための条件となります。

(ウ) 辞書の活用で語彙を増やし、自分で学習する方法を身につかせる

例えば、How are you? という表現の how の役割や働きについて、辞書で調べる時間を取っていますか。「外国語活動で覚えた単語の意味が分かって英語が楽しくなった。」という感想を持っている生徒もいます。単語の奥深さに触れることの楽しさを味わわせ、自立した学習を促しましょう。

(2) ある程度の長さともまりのある英文を読む活動を通して、生徒の思考力を育てましょう。

ア 問題の概要

7	長文の概要・要点を理解し、正しい答えを選択できる。	[正答率 34%]	
〈問題〉 (1) ※スマートフォン使用の問題点に関するワタルのスピーチ原稿を読み、その概要を表す内容を選ぶ問題			
〈正解〉 1	the problems of smartphone	2 the problems of young people	誤答率 [ 25.9 %]
		3 the good points of smartphone	[ 22.3 %]
		4 the information with smartphone	[ 14.6 %]

イ 誤答分析

物事のあらすじや説明文の大切な部分などを正確に読み取ることにより課題が見られます。解答が各選択肢に分散していることから、まとまりのある英文を初見で読む、書き手の伝えようとするを正確に読み取るといった経験の不足が考えられます。

ウ 改善の視点・・・生徒が目的をもって主体的に「読む」ための指導の工夫

(7) 限られた時間で、大まかな流れをつかんだり大切な部分を捉えたりする読み方をさせる

ある程度の速さで英文を読む活動を通して、生徒は英語の語順に慣れたりそのルールに気付いたりすることができます。時間制限をし、書き手の伝えようとするを大まかに読み取るなど、読み方にも目的をもたせましょう。

(4) 生徒に「思考」させることを目的とした読後の活動をデザインする

目的をもって読んだり、その後に関心等を発表し合ったりするなど、読んだことを基に生徒が考え、表現につなげられるような活動を行きましょう。新しい知識に出会う喜びや考える楽しさを、英語の授業でも味わえるようにしたいものです。

< 生徒が主体的に考えたり、判断したりするための読む活動の例 >

学習課題 「マイクがホームステイ先で困ったことは何かを読み取ろう」

今回はマイクが日本でのホームステイ体験を桃子に話します。

Mike: I once had a similar experience in Japan.

Momoko: Oh, did you? Tell me about it.

Mike: My host mother always made Western food for me.

Momoko: Always? But I hear you like Japanese food better than Western food.

Mike: Yes, I like ( \* ) the best for dinner, but she always gave me bread・・・(以下略)


Sunshine English Course 2 <Program 10 So Many Countries, So Many Customs. > p.97

Q: この代名詞 it は 何のことを指しているのだろう? ★



Q: 対話の流れから ( \* ) に入る日本食は何だろう?★★

課題: マイクがホームステイ先で困ったことは何かを読み取って、友達に説明しよう ★★★

(1) あらすじを読み取るための課題

初見の文を読む際には、日本語であっても全ての語句の意味が分かっているとは限りません。手がかりとなる語句や表現をヒントに、推測して読み進められる力を育てましょう。生徒に付けたい力や段階に応じて、のような課題を与え、最初に対話全体の流れを大きくつかむ読み方をさせることも必要です。

(2) 中心となる事柄を理解するための発問

上記の★の数が多い発問ほど、生徒は理解したことを総合的に判断しなければなりません。のような問いで文法事項を理解させたり、のような対話の中心に関わる問いにはその理由も説明させたりします。

内容に対する理解を深めた後の Post-reading の活動としては、「〇〇先生 (ALT) の体験談を聞こう」といった聞く活動をしてさらに異文化に対する理解を深めたり、「マイクの立場になって、ホストマザーに気持ちを伝えていぬに伝えてみよう」といった表現の活動にも発展させたりすることができます。生徒が主体的に考え、学んだ知識を自分の体験と結び付けられるような読後の活動を工夫し、計画的・系統的に指導しましょう。